

## Media Information

2021年12月12日

### FRJ 2021 ラウンド5 レース13 レースレポート

FRJ2021シリーズチャンピオン獲得の古谷悠河選手が今季4勝目で有終の美を飾る

Formula Regional Japanese Championship (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2021のラウンド5レース13が12月12日(日)に鈴鹿サーキットで行われ、レース12でシリーズチャンピオンを決めた28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)が今季4勝目を飾りました。



1周目から各所でバトルが繰り広げられる混戦模様となり、マスタークラスでチャンピオン獲得の可能性を残していた39号車の田中優暉選手(ASCLAYindサクセスES)と、96号車のTAKUMI選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)が日立Astemoシケインで接触してしまいました。田中選手はレース続行を試みましたが2周目にピットインしリタイヤ。TAKUMI選手も再スタートを切ったものの2周目の1コーナーでコースオフを喫して、戦列を離脱しました。

これによりセーフティカーが導入。全車が隊列になって周回し、5周目に入るところでレース再開となりました。

トップ争いは古谷選手と大草選手の一騎打ちとなりましたが、後半になるにつれて古谷選手が徐々に差を広げていき、最後は2.6秒のリードを築いてトップチェッカー。今シーズンのチャンピオンに花を添える今季4勝目を飾りました。2位には大草選手、3位には5号車の塩津佑介選手(Sutekina Racing)が入りました。

マスタークラスでは、4号車の今田信宏選手（JMS RACING with B-MAX）が序盤からリードし、30号車、DRAGON選手（B-MAX ENGINEERING FRJ）と7号車の畑享志選手（F111/3）の2番手争いが白熱しました。どうにかポジションを死守していたDRAGON選手ですが、うまくシフトダウンできない症状に見舞われ、10周目のスプーンカーブでコースオフ。その間に畑選手が先行し2番手に浮上しました。

今田選手は最後までミスなく走り、マスタークラス今季4勝目を記録。2位に畑選手、3位にDRAGON選手という結果になり、畑選手が同クラスのシリーズチャンピオンに輝きました。

#### ■ レース13 優勝 古谷悠河選手コメント

「レース12でチャンピオンを獲れたことは嬉しかったのですが、最後は優勝して終わりたいと思っていたので、本当に良かったです。課題だったスタートについても、ドライコンディションできちんと決まったのは、多分このレースが初めてかもしれません。セーフティカー中はタイヤの温度を下げないように意識して、再スタート後は後ろを見ながらタイヤも労わる感じで丁寧に走りました。今年はスタートやレース中のペースなどで苦しんできた部分がありましたが、最後のレースで一番良いものを出せたようで、やっと成長できたという気もしています。“終わりよければ全て良し”ではありませんが、本当に良かったと思います」

#### ■ レース13 マスタークラス優勝 今田信宏選手コメント

「チャンピオンは獲得できませんでしたが、ベストは尽くせたのかなと思います。これ以上はやりようがないところまでやれました。そもそも自力での逆転チャンピオンの可能性がなかったので、今回は2レースともクラストップから優勝するということを目標にしており、それを達成できて良かったです」

#### ■ 2021シーズン マスタークラス チャンピオン 畑享志選手コメント

「今週は予選でトラブルが出て、2レース目は最後尾スタートとなってしまいました。2コーナーまでに2台は追い抜きましたが『これは厳しいな』と思っていたところ、前方でアクシデントもあり、3番手まで浮上しました。あとはDRAGON選手を抜くだけになりましたが、実はフラットスポットができていたタイヤを使っていたので、挙動がおかしい状態でした。でも『とにかく、いくしかない!』と思って追いかけていきました。DRAGON選手にはシフトトラブルがあったため、最後逆転できたのはラッキーだなと思いました。今週は“悪いこと”もありましたけど、最後は“良いこと”で終わることができました」

「今はチャンピオンになった実感がないというか、前からチャンピオンのことはあまり考えず、目の前のレースをしっかりと戦っていこうと思っていたので、それがこういう結果になって良かったです。今年FRJに1年間参戦して色々勉強になりました。レースは安定していないとダメだなということ、予選から波がないようにすることが、大切だと感じました」

以上

